チャベス・ベネズエラ大統領の逝去と今後の展望

村上　猛

はじめに

2013年3月5日夕方，マドゥーロ副大統領（現大統領代行：Nicolás Maduro Moros）は，同日午後4時25分，チャベス大統領（Hugo Chávez Fríaz）がカラカス市内のカルロス・アルベロ軍病院で逝去した旨発表した。この発表の直後カラカスの街は，すべての商店が閉鎖され，混乱や暴動を恐れた一般市民が一斉に帰宅ラッシュに走り，一時大渋滞が発生したが，夜9時頃からは，数時間前とはうって変わり，死んだように静まりかえる異様な様相を呈した。一部の商店で略奪騒ぎが起こり，1週間ほど前からカラカスの司法当局前で政府に対しチャベス大統領の職務遂行不能を受け入れるよう訴えてハンガーストライキを行っていた学生の宿泊テントがチャベス支持者の焼き討ちに遭うなどの事件はあったものの，それほど大きな暴動には発展しなかった。翌6日に，チャベス大統領の遺体が軍病院から弔問会場となるティウナ軍基地内の軍士官学校に搬送され，8日には，国家元首を含む各国来賓出席のもと国葬がとり行われた。

8日夜に，国会においてマドゥーロ副大統領の大統領代行（Presidente encargado）への就任宣誓が行われ，翌9日には，全国選挙評議会（CNE：Consejo Nacional Electoral）が4月14日に大統領再選挙を実施する旨公示するなど，チャベス大統領逝去後わずか4日間のベネズエラ国内の政局の動きは非常に慌ただしいものであった。そして現在，いまだ公式の選挙キャンペーンは開始されてはいないものの，4月14日の大統領再選挙に向け，与党候補者のマドゥーロ大統領代行と，昨年10月の大統領選挙でチャベス大統領相手に惜敗したカプリレス野党統一候補（Henrique Capriles Radonski：ミランダ州知事を一時離職して立候補）のし烈な選挙戦が始まっている。

本稿が掲載される頃には大統領再選挙の勝敗が決し，すでに新政権が発足していると思われるが，選挙前の3月18日現時点における，チャベス大統領逝去後の政局の動きと国民の反応について整理するとともに，4月14日の大統領再選挙を含むポスト・チャベスの今後の展望について考察してみたい。

チャベス大統領の弔問に列をなす人々。（2013年3月9日カラカスにて筆者撮影）

Ⅰ　チャベス大統領逝去後の政局の動き

1　チャベス大統領の遺体搬送と一般国民の弔問

3月6日10時20分頃，軍病院入口において国歌斉唱が行われた後，チャベス大統領の遺体を納めた棺がカルロス・アルベロ軍病院から出棺された。マドゥーロ副大統領（当時），カベージョ国会議長（Diosdado Cabello Rondón）など閣僚，同日早朝にベネズエラに到着したモラレス・ボリビア大統領（Evo Morales），多数の軍人および与党ベネズエラ社会統一党（PSUV：Partido Socialista Unido de Venezuela）幹部が，ベネズエラ国旗にくるまれたチャベス大統領の棺に付き添った。そして，チャベス大統領に別れを告げるべく道路を埋め尽くした数十万人ともうかがえる群衆とともに，軍士官学校までの約10キロメートルにわたる道のりを徒歩で随伴し，約7時間かけて弔問会場となる軍士官学校に到着した。軍士官学校における一般国民の弔問は24時間体制で受け付けられ，当初は6日から8日の3日間が予定されていた。しかし，チャベス大統領の最後の姿を一目見ようと集まったチャベス支持者が，連日10～20時間待ちという長蛇の列を作っている状況を見かね，政府は，8日の国葬後も弔問期間を15日の夜中2時まで延長する旨発表した。にもかかわらず，弔問終了ぎりぎりまで長蛇の列が途絶えることはなく，改めてチャベス大統領の国民的人気を示すものとなった。

15日，チャベス大統領の遺体は，今度は軍士官学校から北西約10キロメートル離れた大統領府近郊の1月23日地区の高台にある革命博物館（1992年2月4日にチャベス中佐（当時）が陸軍のクーデター未遂を起こした際に司令部として利用した）に搬送された。政府発表によれば，チャベス大統領の遺体はしばらくの間革命博物館に安置され，その後国立霊廟（Panteón）に埋葬すべく憲法修正の手続きをすすめる予定となっている[(1)]。

2　神格化されるチャベス大統領

チャベス大統領は，「21世紀の社会主義」や「ボリバル革命」をスローガンに掲げ，「ミッション」と称する貧困層に対する手厚い社会支援策を施し，平等な社会と社会主義国家建設の理想に向けて志半ばで亡くなった。これにより，ベネズエラ国民の8割近くを占める低所得者層[(2)]の間では，チャベス大統領を「貧困層の救世主」として神格化する動きが見られる。チャベス大統領の弔問に参列する大衆の様子は，聖人・聖地の参拝さながらであり，弔問会場の軍士官学校の周囲では，チャベス大統領のブロマイド写真や選挙キャンペーン･ソング，「Yo soy Chávez」（私はチャベス）とプリントされたTシャツなどが売られている。また，ベネズエラの国営テレビでは毎日，チャベス大統領の生前の活動や大衆とふれあう映像が流されるなど，チャベス大統領はまさに，死して貧困層の崇拝の対象になりつつあるといえるであろう。一部専門家の間では「チャベスなきチャベス主義」（Chavismo sin Chávez）はありえないといわれているが，チャベス大統領ほどのカリスマ性

「Yo Soy Chávez（私はチャベス）」のフレーズとチャベス大統領の顔がプリントされたTシャツ。（2013年3月9日カラカスにて筆者撮影）

を有する後継者が今後そう簡単に現れることはないにせよ，アルゼンチンのペロン主義同様，チャベス大統領の人物像は，その大衆迎合的な貧困救済の思想とともに，イコン化かつ神話化されて，今後も貧困層の間で脈々と受け継がれていくことになると思われる。

3　マドゥーロ副大統領の大統領代行就任

共和国大統領の絶対的欠缺（けんけつ）（死亡，辞任，職務遂行不能と判断された状態）に関する憲法第233条第3項には「共和国大統領の絶対的欠缺が任期の最初の4年で生じた場合，その日から30日以内に新たな選挙の手続きがとられる。新たな大統領が選出され就任するまでの間は，副大統領が共和国大統領の職務を担当する」との規定がある。昨年10月の大統領選挙で4選を果たしたチャベス大統領は，キューバでの手術および術後治療のため，今年1月10日に行われるはずであった国会での就任宣誓を行えなかったものの，最高裁の判断によって同日に憲法上の新たな任期（2013-2019年）をスタートさせていたため[(3)]，同大統領の逝去（共和国大統領の絶対的欠缺）により，この憲法第233条3項が適用されることとなった。

しかし，ベネズエラ最高裁は，8日の日中，チャベス大統領の国葬が行われているまさにその裏で，この憲法第233条3項について政府寄りの解釈を行い，チャベス大統領の逝去に伴い，マドゥーロ副大統領（当時）が「副大統領を離職し」大統領代行に就任する，大統領代行は大統領と同等の権限を有すため，マドゥーロ大統領代行は「大統領代行を離職することなく」大統領再選挙に立候補できる，との判断を下した。これに対し，カプリレス・ミランダ州知事をはじめとする野党陣営は，憲法の規定に従えば，大統領代行を務めるのは副大統領であり，副大統領を離職して大統領代行を務めることはできないとして，その違憲性を訴えるとともに，憲法第229条の「副大統領，大臣，州知事または市長の職務に従事している者は，大統領に選出されない」との規定を援用し，マドゥーロ大統領代行が来る大統領再選挙に立候補する場合には，大統領代行兼副大統領の職を離職しなければならないと主張した。

ところが，こうした野党側の必死の反発を無視するかたちで，最高裁が上記判断を下したその日の夜に特別国会が召集され，野党議員の多くが欠席するなか，マドゥーロ副大統領はカベージョ国会議長に対して就任宣誓を行い，名実共に大統領代行に就任した。

Ⅱ　大統領再選挙

マドゥーロ副大統領が大統領代行に就任した翌9日，全国選挙評議会は大統領再選挙を4月14日に実施する旨公示した。大統領候補者登録の期間は3月10日と11日のわずか2日間，選挙キャンペーン期間は4月2日から11日の10日間と定められた。チャベス大統領が逝去してわずか4日後のできごとであった。今回の大統領再選挙には計7名が立候補しているが，事実上はマドゥーロ大統領代行とカプリレス野党統一候補の一騎打ちになると予想される。

1　マドゥーロ大統領代行 vs カプリレス野党統一候補

(1) マドゥーロ大統領代行と与党陣営

2012年12月8日，チャベス大統領は大統領府において，両脇にマドゥーロ副大統領（当時）とカベージョ国会議長を座らせて国民向けの演説を行い，「これから自分は再発した悪性腫瘍の摘出手術を受けるためにキューバに向かう[(4)]。もし自分の身に何かあり，職務遂行不能に陥った場合に

は，憲法の規定にのっとって大統領再選挙が実施されるが，その際は必ずマドゥーロ副大統領（当時）に投票して欲しい」と述べ，マドゥーロを自身の後継者，および来る大統領再選挙の与党候補者に指名した。翌9日にキューバに発ったチャベス大統領は，結局その後一度も公の場に姿を現すことなく3月5日に逝去した。政府は，このチャベス大統領不在の約3カ月間，国民に対してはことあるごとにチャベス大統領が閣僚に指示を出し職務を遂行している旨アピールしていたが，実際はマドゥーロ副大統領（当時）がチャベス大統領に代わって政権を運営している状況であった。マドゥーロ副大統領（当時）は，その間，来る大統領再選挙を見据えてか，チャベス大統領がこれまでしてきたように各地を訪問し，政府が貧困層向けに実施する「ミッション」の現場を視察するなど，メディアへの露出頻度を徐々に増やして，国民に対する知名度を上げていった。

(2) カプリレス野党統一候補と野党陣営

チャベス大統領の不在中，マドゥーロ副大統領（当時）が，来る大統領再選挙に向けて実質上のプレ選挙キャンペーンを行っている間，一方の野党陣営は，2012年10月の大統領選挙と12月の全国州知事選挙で与党陣営に立て続けに敗れた痛手から十分に立ち直れていなかった。野党連合である民主統一会議（MUD：Mesa de la Unidad Democrática）内で，カプリレス・ミランダ州知事を野党統一候補にするとの合意に至ったのは，チャベス大統領が逝去し，全国選挙評議会が大統領再選挙の日程を公示した翌日の3月10日であった。したがって，今回の再選挙に向けて，カプリレス野党統一候補は，今年1月早々から実質上のプレ選挙キャンペーンを行っていたマドゥーロ大統領代行に対して，大きく出遅れるかたちとなった。

カプリレス野党統一候補は，3月11日に全国選挙評議会に候補者登録を行った後の記者会見において，マドゥーロ大統領代行を「ニコラス（マドゥーロ）」と何度も名指しし，「この選挙戦は自分（カプリレス候補）とあなた（ニコラス）の闘いであり，チャベス大統領を選挙戦に利用すべきではない。あなたは大統領の病状が深刻であるのを国民に隠し続けてきた大嘘つきである。国民に選挙で選ばれてもいないあなたが，（2012年12月9日にチャベス大統領がキューバに発ってから）約100日間も違法にこの国を統治してきた。その間にあなたがやったことといえば，国民の生活を苦しめる通貨の切り下げだけである」との痛烈な批判を行った。昨年10月の大統領選挙に向けた選挙戦で，カプリレス候補は，あえて対戦相手のチャベス大統領を直接批判することを避け，つとめてチャベス派と反チャベス派を差別化せずに取り込む戦略をとり（村上 [2012]），そのスタンスは2カ月後の州知事選挙の際も変わらなかった。カプリレス候補が対戦相手を何度も名指しで強く批判するのは，これまでにほとんど例がなかっただけに非常に印象的であった。その狙いとしては，マドゥーロ大統領代行だけに攻撃の的を絞り，「マドゥーロはチャベスではない」と訴えることで，チャベス大統領に対する支持とマドゥーロ大統領代行に対する支持を分裂させることにあったと推察される。

2　勝敗の見通し

政府与党は，今回の大統領再選挙をいわば「チャベス大統領の弔い合戦」ないし「チャベス政権の信任投票」と位置づけることにより，チャベス大統領に対する支持票を取り込み，マドゥーロ大統領代行の票に結びつける選挙戦略を大々的に打ち出している。政府与党は，大衆によって神格化さ

れたチャベス大統領の絶大な影響力を十分に認識しており，大統領再選挙に巧みに利用している。チャベス大統領の死を「肉体の消滅」ととらえ，彼の思想や精神は死してなお生きていると訴え，マドゥーロ大統領代行がその意志を引き継ぐとのスタンスを，大衆に強くアピールしている。政府は，チャベス大統領逝去後，「チャベスは生きている！闘いは続く！」（¡Chávez vive! ¡La lucha sigue!）のフレーズを支持者の間に普及させることに成功し，今ではマドゥーロ大統領代行の演説もこのスローガンで締めくくられることがほとんどとなっている。

チャベス大統領が逝去し，3月9日に大統領再選挙の日程が公示されて以降，マドゥーロ大統領代行のテレビへの露出頻度は，以前よりも格段に上がってきており，テレビをつければマドゥーロ大統領代行が各種ミッションの視察を行っている映像や，支持者集会において演説を行っている映像が流れている。チャベス大統領の後継者に指名されたマドゥーロ大統領代行は自らを「チャベス大統領の息子である」と述べている通り，彼の演説にはチャベス大統領の大衆迎合的な演説を彷彿とさせるものがあり，語り口や仕草，演説の途中で歌を交える点まで真似て，自分とチャベス大統領を同一化させようとしている。そのうえ，マドゥーロ大統領代行は演説において「チャベス」という言葉と彼の思想を頻繁に引用し，まさにチャベスの威を借りて選挙戦に臨んでいるといえる。

与党陣営は，これまでの選挙同様，豊富な国家予算を選挙に特化したバラマキの資金として乱用できるうえ，国内メディアも牛耳っているため，マドゥーロ大統領代行に有利な選挙キャンペーンを実施することができる。加えて，与党ベネズエラ社会統一党は，全国各地に党支部を張り巡らし，高度に組織化された大衆動員力を有している（坂口 [2012]）。2012年12月の全国州知事選挙では，改選対象23州のうち20州で与党候補者が勝利する結果となったが，その最大の勝因は，与党ベネズエラ社会統一党の「選挙マシーン」と呼ばれる大衆動員力にあったといえる。ミランダ州知事選挙では，カプリレス現職候補とエリアス・ハウア候補（現外務大臣：Elías Jaua Milano）の対決となったが，2カ月前の大統領選挙でチャベス大統領相手に善戦したカプリレス候補が，知名度も国民的人気もそれほど高くないハウア候補にわずか4ポイント差で苦戦を強いられ，辛うじて勝利する結果となった。これらの要因を考えれば，今回の大統領再選挙では，チャベス大統領に対する支持票も相まって，マドゥーロ大統領代行が優勢な状況にあるといえるであろう。

「チャベスは生きている!闘いは続く!（Chávez vive! La Lucha sigue!）」と叫ぶチャベス支持者の若者たち。（2013年3月9日カラカスにて筆者撮影）

Ⅲ 選挙後の展望

1 マドゥーロ大統領代行が勝利した場合

4月14日の大統領再選挙で，仮にマドゥーロ大統領代行が勝利すれば，彼はチャベス大統領の社会主義政策を引き継ぐと強く明言しているた

め，これまでのチャベス政権の政策から大きな変更はないと推測される。国内政策では，チャベス政権同様，為替管理や物価統制を通じて中央政府による経済管理体制を強化するとともに，石油価格が高値で推移する限り，豊富な石油収入を元手に引き続き「ミッション」を通じた貧困層支援にも力を入れていくであろう。

対外政策に関しては，チャベス大統領の逝去を発表する直前の記者会見において，在ベネズエラ米国大使館の駐在武官2名を国外追放し，8日の国会における大統領代行就任宣誓式で米国批判を行ったことからも，引き続きチャベス政権の反米帝国主義のスタンスを踏襲するものと予想される。その一方で，ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC: Comunidad de Estados Latinoamericanos y Caribeños），南米諸国連合（UNASUR: Unión de Naciones Suramericanos），米州ボリバル同盟（ALBA: Alianza Bolivariana para los Pueblos de Nuestra América），メルコスールなどの地域統合組織を重視しつつ，石油を外交カードとして利用し，カリブ諸国，中国，ロシア，イラン，ベラルーシなどとの友好関係も維持するであろう。ただし，マドゥーロ大統領代行はチャベス大統領のようなカリスマ性を持ち合わせていないため，中南米地域におけるプレゼンスは以前よりも低下する可能性が高い。

2　カプリレス野党統一候補が勝利した場合

カプリレス野党統一候補は，今回の選挙に向けたマニフェストを現時点で発表してはいないが，10月の大統領選挙時のマニフェストとそれほど変更はないと思われる。国内政策に関しては，石油収入を国内産業の育成に活用し，積極的に外資を誘致しながら，民間セクターとの協力を推進し国内経済を活性化させること，地方分権化の推進，民間企業の接収・国有化の中止，「ミッション」を政治的差別を排除して継続することなどを，対外政策に関しては，他国への石油贈与の停止，ALBA諸国や非民主主義諸国との関係見直しなどを提唱している。

現時点で，カプリレス野党統一候補が勝利する可能性は高くないものの，仮に勝利した場合や接戦となった場合には，選挙結果を巡って，与野党支持者の衝突を含め，国内が混乱する可能性が高まると予想される。

3　チャベス政権の負の遺産

（1）国家財政の困窮

チャベス政権の14年間で，石油価格（年間平均）は，2008年のリーマン・ショックによる一時的下落はあったものの，1999年の1バレル16.18ドルから2012年の103.42ドルに上昇していった。世界有数の産油国であるベネズエラは[(5)]，この石油価格高騰により政府歳入を大幅に増やした。その意味で，チャベス政権の14年間は，石油価格の高騰に支えられた政権であったといえる。チャベス政権はその間，豊富な石油収入をてこに，石油，鉄鋼，金融，食品などの基幹産業に関わる企業を次々と接収・国有化し，選挙があるたびに政府予算を乱用して有権者に対するバラマキを行った。また，対外的にも石油を外交カードとして積極的に活用し，石油を贈与あるいは特恵価格で売却することにより，ALBA諸国やペトロカリベ諸国をはじめ，中国，ロシア，イランやベラルーシなどの反米諸国との関係を強化してきた。

しかし，石油価格の高騰により政府歳入は大幅に増えたにもかかわらず，非効率な国家管理型経済により，石油開発に対する技術移転や設備投資が滞り，石油生産量は1999年の日量306万バレルから2012年の日量280万バレルに減少した[(6)]。

そのうえ，石油輸出に依存し続けて，その他の国内産業を育成してこなかったことから，非石油部門の輸出が減少する一方，輸入額は1999年の年間144億9200万ドルから2012年の年間593億4000万ドルに増加した[7]。政府が抱える債務総額は，1999年の290億7000万ドルから2012年には1047億8000万ドルに増加し，これにベネズエラ石油公社（PDVSA: Petróleos de Venezuela, Sociedad Anónima）が抱える債務総額401億ドルを加えると，合計1448億ドルへと約5倍に膨れあがった（*El Universal*, 5 de marzo, 2013）。

チャベス政権はこれまで，豊富な石油収入をてこに国内外でバラマキを行うことで，国内の政権基盤を固めるとともに，ラテンアメリカにおける一定のプレゼンスを維持してきた。しかし，今後の石油価格の変動が不透明であることと，国家財政が多額の債務を抱え危機的状況にあることを考えると，ポスト・チャベスの次期政権がこれまで同様の政策を継続することは非常に難しいと考えられる。

(2) 治安の悪化と高インフレ

このような国家財政の危機的状況に加え，ベネズエラ国民の多くは，第1に治安の悪化，第2に高インフレによる日常生活の経済的困窮を懸念している。

治安の悪化に関しては，人口10万人あたりの年間殺人犠牲者数が1998年の19.4人から2012年の55.3人へと約3倍に増加しており（*El Universal*, 12 de marzo, 2013），ベネズエラは世界でも有数の殺人発生率の高い国となっている。さらに，ベネズエラの刑務所内には，囚人と看守の癒着が原因で銃器や麻薬が日常的に流入しており，刑務所自体が犯罪の巣窟となっている。2011年6月には，ミランダ州のロデオ刑務所で囚人同士の抗争が起こり39名が死亡，警察当局は事態を収拾するのに1カ月近くかかった。この事件をきっかけとして刑務所省が創設されたが，ほとんど機能しておらず，2012年8月にはミランダ州ヤーレ刑務所で暴動が発生し26名が死亡，2013年1月にはララ州バルキシメト市のウリバナ刑務所で暴動が発生し50名以上が死亡した。囚人同士，あるいは囚人と警察当局の抗争による刑務所内の囚人死亡者数は，1999年の390人から2012年には591人に増加し，刑務所問題は政府のガバナンス能力が大きく問われる懸案事項となっている。

また，ベネズエラのインフレ率は毎年20％から30％の高い数値で推移しており，2013年2月のボリバル通貨切り下げによってその傾向に一層拍車がかかったほか，食品の国内生産の縮小と流通網の不備が相まって品不足が起こるなど，日常生活における国民の不満は徐々に高まっている。

むすび

3月15日，モラレス・ボリビア大統領は，革命博物館に搬送されたチャベス大統領の棺の前で弔辞を捧げ，チャベス大統領のことを「貧困層の救世主」と評した。これまで述べてきたように，3月5日にチャベス大統領が逝去した後，国内では大衆によってチャベス大統領が神格化される動きがみられる。確かに，チャベス政権14年間において，「ミッション」に対する予算割当額は2001年の3400万ドルから2011年の396億400万ドルに飛躍的に拡大し[8]，貧困率は1999年の43.9％から2012年の26.9％に大幅に改善した（*El Universal*, 7 de marzo, 2013）。それは，チャベス大統領が重視して行ってきた貧困層向け社会支援策の功績ともとらえられるが，反チャベス派の住民は貧困層であってもその受益対象から排除するという排他的な社会構造を築き上げ，14年間をか

けて国民をチャベス派と反チャベス派に二分してきたのも，まさにチャベス政権であった。

4月14日の大統領再選挙で，マドゥーロ大統領代行とカプリレス野党統一候補のどちらが勝利するにせよ，ポスト・チャベスの次期政権を担う者は，多額の債務を抱える危機的な国家財政，治安の悪化，高インフレによる国民生活の困窮など，チャベス政権が14年間放置してきた負の遺産も背負わなければならない。その一方で，次期政権が国民の不満を引き起こすような政策を行えば，国民の間で，今は亡きチャベス政権への回帰を望む声が高まる可能性も出てくる。神格化されたチャベス大統領の存在は，利用すべき対象にもなるが，場合によっては政府に対する圧力にもなり得る。いずれにせよ，ポスト・チャベスの次期政権は，残された課題の多さと神格化されたチャベス大統領の存在に悩まされ，非常に困難な政権運営を余儀なくされるであろう。

（執筆日：2013年3月18日）

［付記］4月14日にベネズエラ大統領再選挙が行われ，マドゥーロ大統領代行50.78％，カプリレス野党統一候補48.95％の得票率により（開票率99.34％：4月15日全国選挙評議会発表），マドゥーロ大統領代行が2ポイントを下回る僅差で辛勝した。カプリレス野党統一候補は，選挙結果発表直後に記者会見を行い，選挙当日に3200件以上の選挙不正が報告されたこと，上記の選挙結果が野党陣営が独自に行った集計結果と異なることなどを理由に，全国選挙評議会に対して票の再集計を要請した。しかし，全国選挙評議会は，野党側の要請を無視するかたちで，選挙翌日の4月15日にマドゥーロ大統領代行の新大統領認定式を行った。4月17日現在，カプリレス野党統一候補は敗北を認めておらず，選挙結果を巡って全国的に与野党支持者の対立が先鋭化，一部は暴力事件に発展して死傷者も出るなど，先行きが不透明な状況が続いている。（執筆日：2013年4月17日）

本稿における見解は個人的なものであり，外務省ならびに在ベネズエラ日本国大使館の見解を代表するものではない。

注

(1) 憲法第187条15項の規定によれば，共和国に優れた功績をなしたベネズエラ人を国立霊廟に祀るには，死後25年経過する必要がある。

(2) 民間調査会社ダトス社は，住居の広さ，基礎インフラ，居住者人数，教育水準，その他財産の保有状況によって，ベネズエラ国民の社会階層を最高所得のA層から最低所得のE層にクラス分けしている。2012年の調査結果によれば，A層とB層とC^{+}層が全人口の4％（約112万人），C^{-}層が13％（約364万人），D層が30％（約840万人），E層が53％（約1480万人）となっており，いわゆる低所得者層（D層＋E層）は全人口の83％を占める（出所：*El Nacional*, 24 de febrero, 2013）。

(3) 共和国大統領の就任に関する憲法第231条には「選出された候補者は，その任期初年の1月10日に国会に対して宣誓し，共和国大統領の職に就任する。何らかの突発的な原因により共和国大統領が国会で就任できない場合には，最高裁に対してこれを行う」とあり，チャベス大統領がキューバからベネズエラに帰国して国会に対する就任宣誓を行うかどうか注目されていたが，1月9日，ベネズエラ最高裁は本件解釈に関し，「来る1月10日に憲法上の新たな任期が開始されるが，チャベス大統領は再選された大統領であるため，大統領職務の中断は存在しないとの理由（行政権の継続）により，新たな就任は必要とされない。再選された大統領の形式上の就任宣誓は，1月10日に国会に対して行えない場合は，突発的な理由（チャベス大統領の健康問題）が解消されたと確認され次第，最高裁に対して行うことができる」との判断を下した。結局，チャベス大統領はベネズエラに帰国することなく，翌10日の国会に対する就任宣誓も行われなかった。

(4) チャベス大統領は，2011年6月10日にキューバで骨盤膿瘍の手術を受けた際に「野球ボール大の悪性腫瘍」が見つかったとして，数日後に2回目の手術を受け，同6月30日に，キューバから国営

放送を通じて自分が悪性腫瘍に冒されている旨告白した。その後，キューバおよびカラカスにおいて複数回の化学治療（抗がん剤治療）を受けたが，悪性腫瘍が再発したとして，2012年2月27日にキューバで3回目の手術を受けた。その後，キューバで複数回の放射線治療を受けたが，同年12月8日に悪性腫瘍が再々発した旨告白し，同年12月11日にキューバで4回目の手術を受けた。

(5) 石油輸出国機構（OPEC）の2012年年次統計報告によると，2011年のベネズエラの原油確認埋蔵量は2975億バレルで，サウジアラビアの2654億バレルを上回り，世界一である（OPEC Annual Statistical Bulletin 2012, Viena：OPEC, April 17, 2012）。

(6) *Ultimas Noticias* “La Era Chávez,” 18 de marzo, 2013, p.14

(7) *Ultimas Noticias* “La Era Chávez,” 18 de marzo, 2013, p.16

(8) *Ultimas Noticias* “La Era Chávez,” 18 de marzo, 2013, p.14.

参考文献

坂口安紀 [2012]「ベネズエラ・チャベス大統領の4選」『ラテンアメリカ・レポート』Vol.29 No.2, 2-12ページ。

村上猛 [2012]「ベネズエラ大統領選挙に向けた展望」『ラテンアメリカ時報』2012年夏号。

（むらかみ・たけし／在ベネズエラ日本大使館専門調査員）